

## あとがき

今年2018年は、国際自然保護連合（IUCN）がフランスのフォンテーヌブローの森で誕生してから、70周年を迎える。この70年間に、自然保護の概念は、保護（protection）から保全（conservation）に移り、さらに公害問題をはじめとする生活環境、生物多様性・気候変動をはじめとする地球環境の問題、さらに持続可能な開発目標など、大きな広がりを見せている。

本書は、2014年から筑波大学の大学院生向けに開講している自然保護寄附講座の授業、2017年から学群生向けに開講している自然保護学入門の授業内容をもとに、最新の自然保護学の教科書として使えるものとすることを目指して編集した。そのため、気候変動のみならず海洋酸性化など、最新の知見も含んだ内容とした。

本書の発行にあたり、研究教育活動ご多忙の中、執筆いただいたみなさんに深く感謝申し上げます。生命環境科学研究科の地球進化科学専攻の指田勝男教授、角替敏昭教授、八木勇治准教授、鎌田祥仁准教授には、自然保護の基礎となる地球の成り立ちについて執筆いただいた。また、生物圏資源科学専攻の上條隆志教授には、森林、草原など陸上生態系について執筆いただいた。国際地縁技術開発科学専攻の伊藤太一教授には、生態系保護のため大きな役割を果たしている保護地域について、人間総合科学研究科世界遺産専攻の伊藤弘准教授には、人の生活や歴史を含んだ景観の保護について執筆いただいた。

自然保護寄附講座専任の佐伯いく代准教授、佐方啓介准教授、武正憲助教、和田茂樹助教、イシザワ・マヤ研究員には、原稿執筆に加えて、本書の編集を担っていただいた。とりわけ、武正憲助教には、原稿の取りまとめに尽力いた